

大腿骨近位部骨折における 二次性骨折の予防

脆弱性骨折診療のパラダイムシフト—二次性骨折予防継続管理—

2012年にFragility Fracture Network (FFN)のglobal会議に初めて参加した時に学んだことは、骨粗鬆症性骨折から脆弱性骨折という視点への切り替えでした。「脆弱性」という言葉の意味が、骨格にとどまらず全身的な問題を指しているということを理解すると、本疾患の重大性が改めて認識されることに小さな衝撃を受けたことを覚えています。FFNのvisionには脆弱性骨折ケアの最適化のための集学的治療体制、二次性骨折予防のためのFLS (fracture liaison service)の普及、医療政策へのアプローチとあります。国際的な歩みを共有しながら日本における脆弱性骨折に関わる関連学会をつなぐ組織として日本脆弱性骨折ネットワークが2015年に法人化されました。そして2022年春の診療報酬改定は、これまでも患者の視点で大腿骨近位部骨折の早期手術対応や二次性骨折予防に積極的に取り組んでいた医療機関にとって嬉しいニュースとなり、何よりも患者にとって大きな恩恵をもたらすパラダイムシフトとなりました。

本特集では「大腿骨近位部骨折における二次性骨折予防」について本疾患の多面的な視点を各エキスパートの先生にご執筆いただきました。堀米洋二先生からは二次性骨折の疫学的背景、重本顕史先生からは病院での多職種連携と自院での実践、長谷 亨先生からは急性期病院での患者管理、田中雅博先生からは病院から始まる地域連携の実践、鶴上 浩先生からは整形外科診療所の立場からみた患者管理、田中伸哉先生からは薬剤治療と栄養介入の基本的な考え方、小川貴久先生からは機能予後とリハビリテーションと、ご自身の臨床経験や研究活動にもとづいた充実した内容になっています。お忙しいなかでご協力いただきました先生方には深く感謝申し上げます。

日本における今回の大腿骨近位部骨折の診療報酬の改定は国際的にも評価されており、なぜ医療政策的变化が起きたのか、日本はどのように変わるのか注目が集まっています。私たち整形外科医が、診療科や職種を超えてチーム医療をリードし、今回の診療報酬改定にもとづいた患者管理を普及させることが求められています。コロナ禍で高齢者の活動が制限された影響から生じるフレイルや易転倒などによる脆弱性骨折はまだ増加傾向が続いています。本特集号が先生方の日々の診療に役立つことを願っています。

(山本智章)